

新市場整備・輸出拠点化等調査特別委員会

卸売市場の再整備(令和4年3, 6, 9定例会)

整備の進捗状況と今後のスケジュール

市民の「食の台所」としての役割に加え、衛生管理の整った加工施設や、農水産物の効率的な輸出を可能とするワンストップ輸出拠点機能を備えた日本初の卸売市場として開場した新成田市場に、新たに成田市がリース方式にて整備を進めていた関連食品棟が、本年11月19日に開場することが決定しました。

関連食品棟は、青果物や水産物以外の生鮮食料品等の販売や飲食店営業を行う市場の補完的機能を担う施設であり、具体的には肉や漬物、調味料や包装資材等の販売を行う事業者や、定食や海鮮丼、炉端焼き等の提供を行う事業者が入居します。



新成田市場の機能



工事中の関連食品棟

主な質疑

Q

現在の取扱高は。

A

令和3年度の取扱高は、令和2年度と比べ、青果部は約99パーセントとなる約7億8,279万円、水産物部は約96パーセントとなる約33億8,322万円である。

主な増減の要因は、青果部では大手スーパーを顧客に持つ事業者との取引が減少したこと、水産物部では緊急事態宣言や、まん延防止等重点措置に伴う飲食店の休業や時短営業、外出自粛などによるものである。

令和4年度は、8月までの取扱高は令和3年度の同時期と比べ、青果部は約99パーセントとなる約3億6,069万円、水産物部は約131パーセントとなる約15億6,583万円となっており、まん延防止等重点措置の終了後は飲食需要の回復に伴い、取扱高も回復傾向にあると考えている。

Q

国道51号線および県道成田小見川鹿島港線から卸売市場への案内標識設置の進捗状況は。

A

現在、国道51号線および県道成田小見川鹿島港線の各道路管理者と協議を進めている。

市場を訪れる市民や事業者からも、案内標識を設置して欲しいとの声が寄せられていることから、なるべく早期に設置できるよう、引き続き協議を行う。



新成田市場

新生成田市場開場記念イベント(令和4年6, 9月定例会)

成田楽市の開催

新生成田市場の開場後、初めてとなるイベント「成田楽市」を、本年3月26日に開催し、青果・水産物の大売出し、生マグロの解体ショーや、魚に関する豊富な知識を持つタレントのさかなクンによる「お魚クイズ」などを行い、会場は多くの来場者でにぎわいました。

また、7月23日には、第2回目となる「成田楽市」を、日本航空株式会社の物産展「鶴マルシェ」と併せて開催しました。

今後も、場内事業者だけでなく様々な事業者と連携し、新生成田市場の機能や生鮮食料品に対する理解を深めていただき、市民の皆様にも親しまれる市場となるよう「成田楽市」を開催します。



イベント当日の様子

主な質疑

Q 新生成田市場の認知度向上のためには、イベントの開催が絶好の機会となると思うが、今後のイベントの開催予定は。

A 詳細は場内事業者等で組織した実行委員会で検討していくこととなるが、今後は秋や年末、また新市場の1周年での開催を検討していると伺っている。

輸出拠点化推進事業(令和4年3, 6, 9月定例会)

展示商談会への出展について

千葉県などと共同で、アジア最大級の食品・飲料総合展示会「FOODEX JAPAN 2022」および食品輸出に特化した展示商談会「日本の食品“輸出 EXPO”」に出展し、新生成田市場のワンストップ輸出拠点機能をPRするとともに、参加した場内事業者が国内外のバイヤーとの商談を実施しました。

今後、国内外における新型コロナウイルス感染症の影響が減少し、経済活動が正常化に向かうことで、さらなる輸出の拡大が見込まれることから、引き続き新生成田市場のワンストップ輸出拠点化を推進します。

主な質疑

Q 現在の輸出実績は。

A 令和4年度の7月までの輸出実績は、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前の令和元年度の同時期と比べ約49.6パーセントになる3億8,845万円となっており、順調な滑り出しと捉えている。

